

① 人間は靈魂として創造され (その目的は分らない) , その時 アーエとエにあり (と云はれるとはどういふことか不明) , して その後には (時間的に) 事件の順序として, 或は 何事か順序として) 肉体を与えられた現世に生ぜしめられたのであり. 肉体の消失 (死) 後は再び靈魂として アーエに歸るべきである. *Islam* はもつて "信" と思ふ. 二つの場合 死後ののみが之り は 肉体の消失後も靈魂が生き残る (つまり靈魂が存在して) と云ふことは知られて居る. 二つは イスラ-ム教の

信である. *Islam* に於けるのみが之りは 死後と 肉体を失はれた完全な人間としてあり. 死後直ちに復活するに對する反論は知られて居る. 死後は "ただん" 肉体は 57 と信じて 墓場に入らねばならぬからであり, のみが之りは それ "一" の段階をわたる行なわれる.

従つて上の四つを主張し 説けるためには, 靈魂は 肉体の消失後ものみが之りの間まで "たは" *dormant* な状態にあるにせよと し 何れか "たは" なる. 二つの場合のみが之り だが, *dormant* な靈魂と 肉体を失ふと 同時に 塵世に居ることになる. しかし 二つとも *خلق* である.



人間は最初の創造に於ても肉體を有してゐることは否か、可成りそれは現世で死する事である。しかしながら然らずは否か、来世かも知れないと云ふは、我々の力は否か。否か。第一、それは来世で現世ではないか(つまり来世の)、肉體を有する人間とは一律として同じに image されるのか(=これはアラブ人に於ては天の宮に於て生ると image される)の如く、その reality を与ふるに足るは決して(否か)た。それは子供と老に於て、青年と老に於て、それと老人か。老は、無理に、青年と老にかたし、詩人の子供である子供と老と、人間をたんに生かす事と死の事とを区別する事は、それの如く、子供と老、これもその状態は、前記の状態とどうも、無理な事か、に困る事である。可成り結局、現世に生かされる前の人間は、その image できると、=とに於て、人間の最初の創造は現世で、=とに於てある。=に、来世は現世の次の世界である、前の世界ではないか。来世に於ける肉體を有する人間は、死したる肉體の image の残料と云ふ事である。

従つて、結論として、人間の最初の創造は現